

へっ

あんまり具合が良いんで
射精し過ぎちまったな

造り変えるには
最高の素材だけ

だがまさに
うつつけ

よくやったガロンよ
これほどの女肉は
なかなか手に入らぬ

あとは我に
任せるがよい

魔悦の淫門

MAETU NO INMON

～邪淫の門は闇夜に開く～

我が直に闇の波動を注ぎ込み
この熱れた血肉を
徹底的に改造してくれよう

このソドムに相応しき

みだ
どつもう
猥らで獰猛な淫獣に

クツクツクツ
どんな淫乱なメスが出るのか
仕上がりが愉しみだぜ

目覚めたそこは
異様な世界だった

でもその直後に
烈しい倦怠感けんたいかん
に襲おそわれると

えええ

はああ……わ……私
どうしてこんな……

私は一瞬状況が
理解できなかった

あっ?!

私はすべてに
全てを思い出した

自分自身の犯した
忌まわしき記憶を

そうだった……

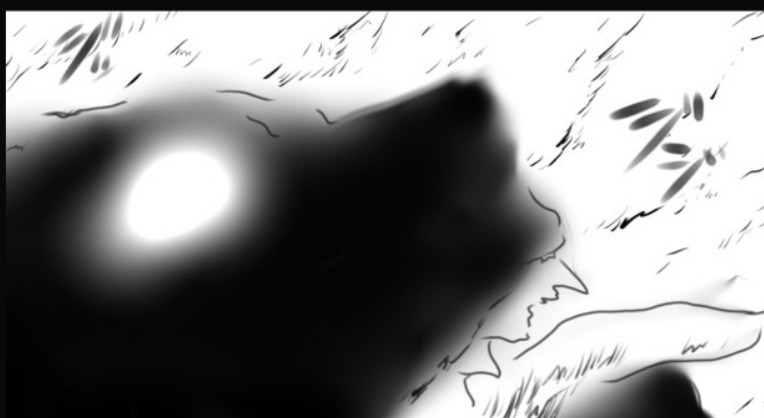
なんて馬鹿なことを

私……

私は秋月彰子 現職の女刑事だ
だが私には同僚や家族の知らない
裏の顔がある
それが—— 妖魔の討伐



女退魔師Ⅱ神咲彩乃と共に
彼女の協力者として
異界からの侵入者Ⅱ妖魔や
魔傀まかい(邪悪な心をつけ込まれて
妖魔の手先に堕ちた人間の変異種)
の掃討に力を貸しながら



その元凶である妖魔の
侵入口Ⅱ閻門ゲートの封印に
尽力していた

しかしそんなある夜
私は闇門の門番と名乗る凶悪な妖魔ガロンに襲われ



何もできなごまま



あえなく
捕縛されごまま



ムク



闇の施術によって
洗脳され



かっ！

はあぁぁぁ！

なんなのよこれ？

不覚にも妖魔の意のままとなつて



ククツいい声で
啼きやがる
そんなにいいか
なら自分から
ケツを揺すつて
快樂を貪つてみる

そうすればすぐに
頭から何もかも
ぶっ飛んで楽になる

己の身を魔物に委ねてしまった

でも今は
打ちひしがれている
場合では無かった

先ずやるべきことは
この異常な状況から
抜け出すことだった

私は逃げた――

だがいくら歩いても
出口は見つからなかった

歩けど歩けど
現れるのは重く冷たい空気に澱んだ
薄暗い不気味な空間ばかりで
時間と労力を無駄に消費するだけだった

それはまるで無限ループの
迷路のようだった

私はそこが何処なのか
分からないままただひたすら
出口を探して彷徨い続けた

幸い妖魔は見当らず
追っ手は無かった

やがて私は確信した

ここが閻門の創造した
虚構空間であることだ

そう……私は取り込まれたのだ

私達の在る世界と向こう側の世界の狭間に
構築された悪しき閻の領域に……

まさに絶望的な状況だった
案の定出口はいくら歩いても見つからず
私はただ無駄に彷徨い続けるだけだった

それでも私は必死に
意識を保ちながら出口を探した

はああ……疲れる……
息がどんどん荒れていく……

でもしっかりとしなきゃ
自分を保たなきゃ

ここは閻門の支配領域
少しでも気を緩めたら
あッという間に意識を
呑み込まれてしまう……

この虚構空間に長時間囚われる事は
私の意識と肉体が凶悪な思念の影響を
強く受けることを意味する

一刻も早く
彩乃さんに知らせないと

こんな強力な閻門を
放置していたら
大変な事になってしまう

だから急がなければならなかった
焦った 精神が悪影響を受ける前に
何としても脱出したかった

急がないと！

そのためにも
何が何でも
ここから
逃げ出すんだ！！

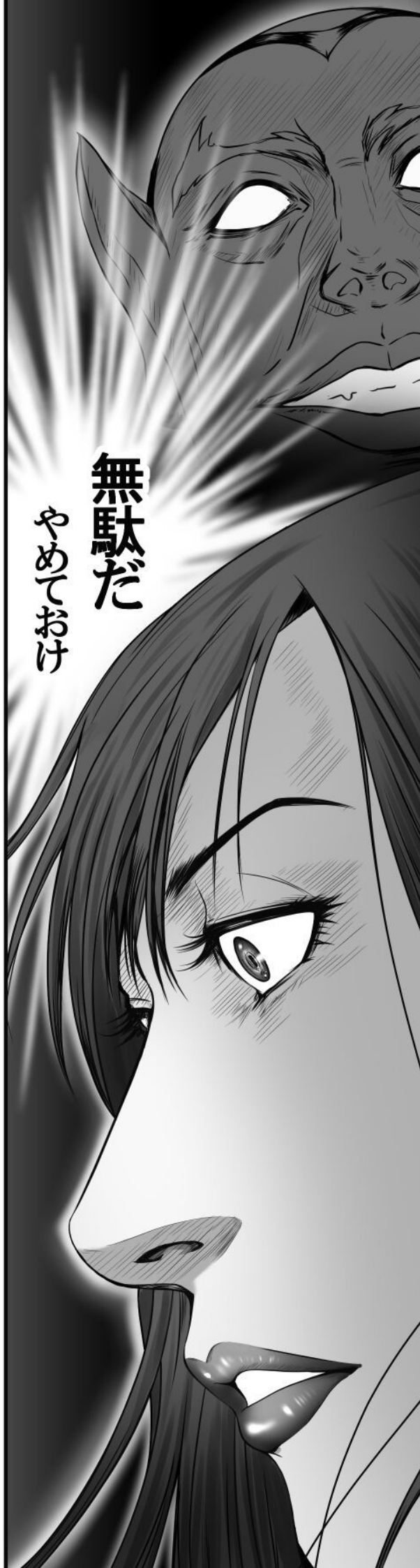
私を突き動かしていたのは強い使命感
ただそれだけだった——なのに

こっ…この声?!
あの妖魔の…

アハハ!!

無駄だ

やめておけ



なっ…!?

クククククク
悪足掻きはやめておけ

なによこれ!?

急に躰が…

こぼれども
闇門の意思によって
次元の狭間に構築された
完全なる支配領域

ここでは如何なるものも
闇門の意思の思ひがまま
もはや自我を保つことすら
かなわぬぞ

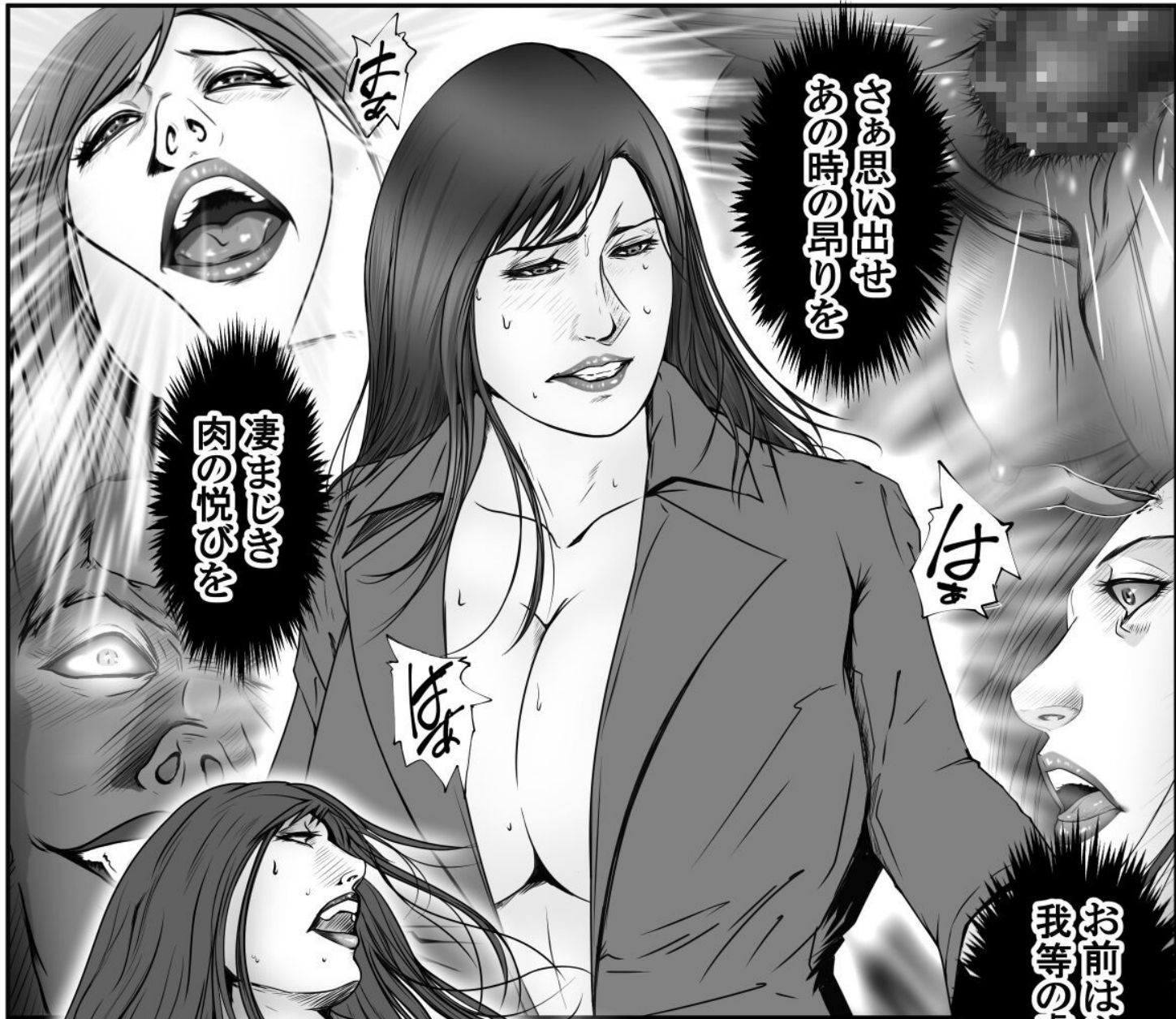
ああ…そんな

苦しみたくなければ
無駄な抵抗などやめ
闇門の意思に
総てを委ねることだ

あっ…

あああああっ!

頭の中で…声が!?



さあ思ひ出せ
あの時の昂りを

凄まじき
肉の悦びを

お前はもはや
我等の虜なのだ



あああ……
聞いちやダメ

やめて!!

ずけずけと
人の頭の中に
入ってくるな

あーっ

さあ堕ちよ
受け入れよ

カチカチ

理性など捨て去り
醜く歪んだ本性を
ありのままに曝け出せ

はっ…ああ
やめて…

お前はどのソドムで
堕ちたメスだ

ハッ

ハッ

ハッ

メスなのだ！

はっ



カチカチ

はああ…のっ
呑み込まれる

ダメなのに…

ハッ



この衝動を

この欲望を
どうしても

ハッ



あっ

お抑えられないいい！

ハッ

ハッ



あ

あ

あ



ああああれ

あの明かり



ひ

出口
じゃないの!?



あ

ん

そりだ
狂え 狂いのだ!

はあ

ぬ

今こそその心に巢食り
ドロドロした欲望を解き放ち

己の闇を

はあ

受け入れよ!

は

禍々しき悪を

ああっ……なにやっつてるのよ！

また簡単に流されて……

まだよ……まだ

こんなところで終われない

終わらせてたまるか！

負けちゃダメ！

呑み込まれたらそれで終わり

絶対に……

絶対に諦めるな！

生きる……

生きるのよ！！

ムッ

ムッ

ムッ

負けるな

負けるな！

なんとしても
ここから抜け出すんだ！

またみんなに

仲間

ズキン

ズキン

ズキン

ムッ

ムッ

ムッ

家族に会ったためだ！

よしここまで来れば

ハア

ハア

でもこれが限界
もうこれ以上は……

だからお願い……

カ
ズ……

お願いだから

出口でもっしょー！

えっ!?





残念ながら
お前の願いは叶わぬぞ

このソドムの虜となつた以上
逃げ道など有りはせんのだ

だが大したものだ
その血肉を妖魔の精に
侵されていながら

我が領域の中でこれほどに
自我を保つことが出来るとは

魔^ま鬼^{かい}にでも
墮とすつもりだったが

お前には
それ以上の資質が
備わっているようだ

しっ……しっ
何の資質よ!?

ククッ
分からぬか

そっ……そんな!?

妖魔の資質だ！

お前は我に身を捧げ
忠実になる下僕として
改造されるのだ

なっ!?
何を馬鹿な!!

誰がお前達妖魔に
この身を捧げるもんですか!

クツクツクツ
もう逃がさぬぞ

その麗しき美貌に
成熟したメスの肉体
そして我等にも臆せぬ
強い知性と精神力
まさにお前は
我が力の器とするに
うってつけのメスなのだ

では試してみるがいい

グッ

えっ!?

ググッ

しまった!

足が……動かない



故に今度は我が直々に
調教を施してくれよう

お前の内の潜む
邪なる闇を引き摺り出し

これからは

いっ……いや

我等の支配を
受けることが

お前にとって

その肉体と魂を
我が従僕に相応しきメスに
改造してくれるわ

最高の至福となる

ああ……



さあ 受け入れよ
そして生まれ変わるのだ
欲望と快楽をただひたすら
貪り喰らう野蛮な淫獣

このソドムのはぐスに！！

ああ……そんな

やめて
！！

アッ

あつ

さあ
これで前も
お終いだ

はああがつ！

あとは存分に
愉しんで

がああああ！！

堕ちるところまで
堕ちるがいい



あああ……
ダメだああ

どんだん頭の中
入り込んでくる

いや……いやっ！
助けて！

妖魔に支配される
ぐらいなら——

死んだ方がましなのに！

こんな凶悪な力……
とてもじゃないけど
抗えない！

ああああ……お願い……お願いだから

人として……終わらせたい……

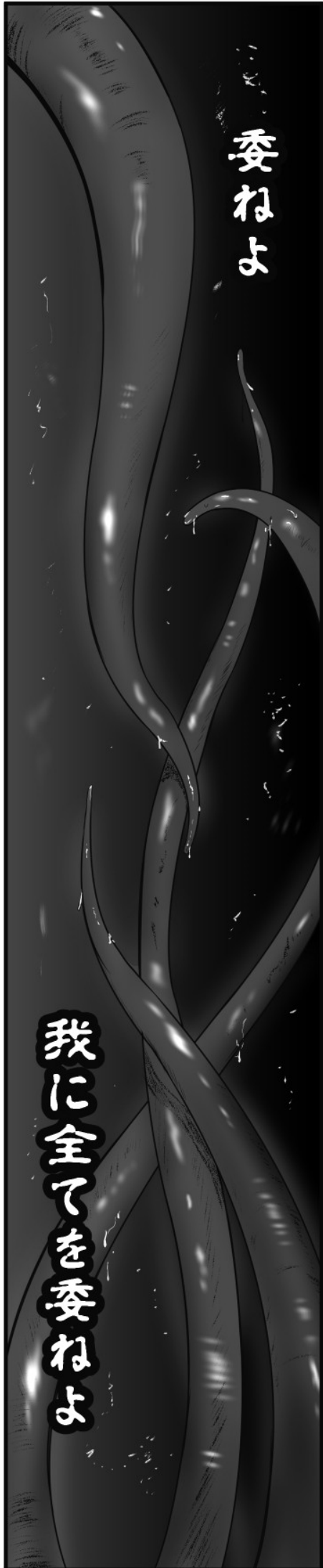


ああ

もはやお前は我が虜

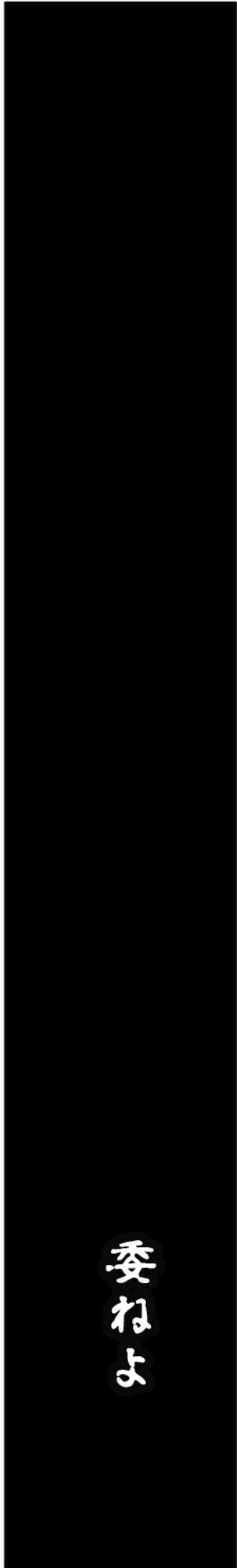
はあ

その精神も肉体も
我が支配し管理する



委ねよ

我に全てを委ねよ



委ねよ

んじは……!?

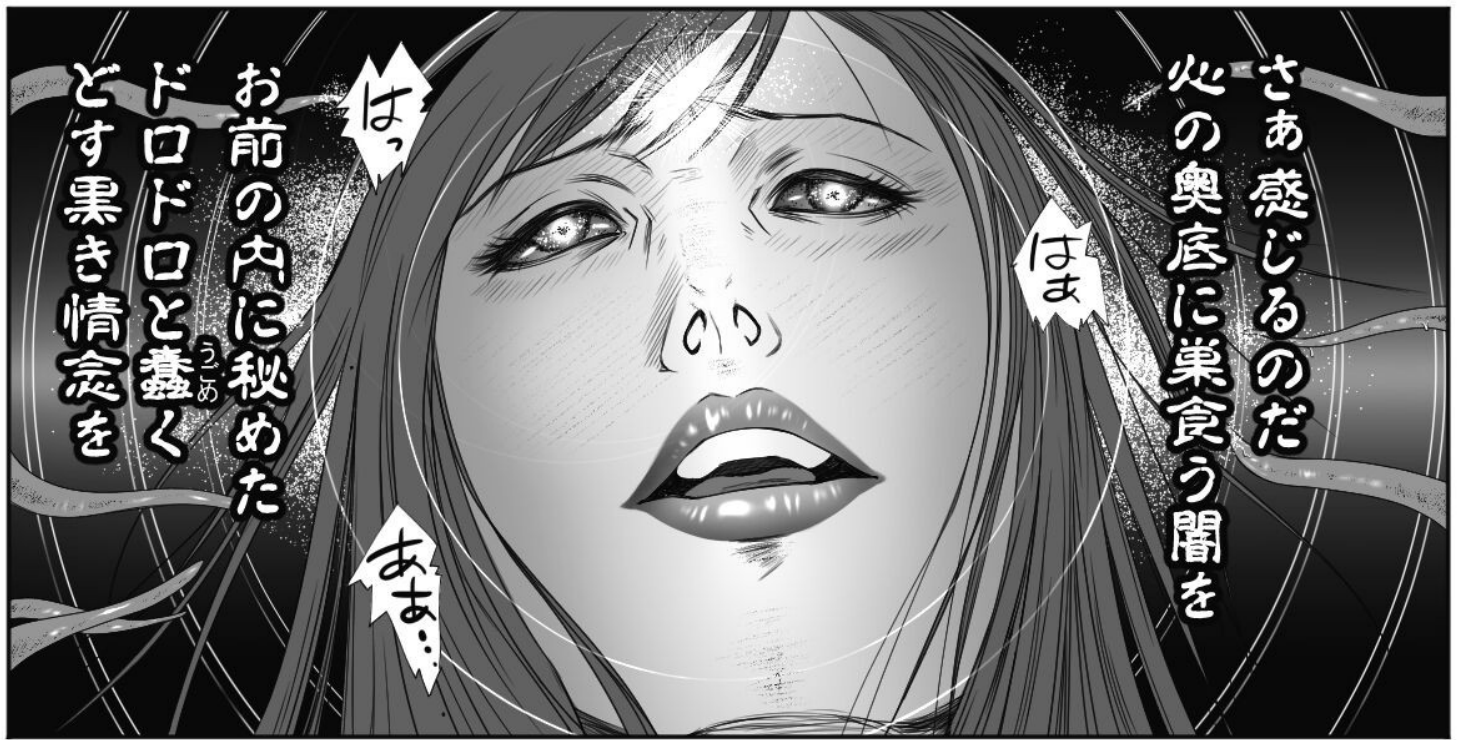
あっ……はああ

クツクツクツ
ここは我の悪念領域

お前の精神は今
肉体という物質的呪縛を解かれ
我が悪念の内へと取り込まれたのだ
もはや抵抗も拒絶も叶わぬぞ
総ては我の意のまま 思い通りよ

さあ心を開き 我に全てを委ねよ
我が声を聞き 我の導きのままに
己の闇を増幅させるのだ





さあ感じるのだ
心の奥底に巣食う闇を

はま

はっ

あま...

お前の内に秘めた
ドロドロと蠢く^{うごめ}
どす黒き情念を



お前にも
あるはずだ

ザッ

ズズ

我欲 嫉妬 憎悪
怠惰に痴情...

ズズ

おおよそ人間が
持ち合わせる
醜く歪んだ負の情念が

ザッ

それに従うのだ

人間は愚かな生き物だ
この世界を食い潰す
強欲で罪深い害虫だ

さあ自分を偽らず
心の有りのままを曝け出せ

そんなものを守る事に
何の意味がある
何の価値がある



あああ...響く
聞いてるだけで脳の奥まで
深く強く沁み堕ちていく...

はあああ...でも
それが...それが
物凄く気持ちいい

あつ…あああ

あま

はま

んっ

ぞうだ

今のお前なら分かるだろう
人外の悦びを知り
我等の精を受けたお前なら
下らぬ正義に囚われる事の
虚しさ 無意味さが

さあ 堕ちよ

今こそ心の奥底に鬱積した
凶々しき情念を解き放ち
堪りに溜まつた心の膿を
思う存分吐き出すのだ

そうすれば
楽になる

自由になれる

解放される

我を

欲を知り

狂気を知り

悪を知り

総てを
受け入れ

そして
目醒めよ

その邪悪で強欲な
どす黒き心の闇を
今こそ解放するのだ

ドロドロしたものが…

はああ…分かる

感じる！

んっ

あひゃー

心の奥底に鬱積した
凶々しい情念が！

はあっ
あああああっ!!
感じる
感じる
感じる!!



あっ

んはっ

あう

はあっ

オオオオオ

ハアッ

あっキィ



あああああ
これが……これが私の
心に蠢くモノの正体

私の醜い本性

邪悪で強欲な心の闇!!

はああ……でもこれ

すうすう……

すうすう……気持ちさらさら!!



えアっ

はしたない売女だ

あひっ

野蛮な淫乱だ！

ヒイあ

あえっ



野蛮な——淫乱！

はああ……そうよ
私はメス……
はしたない売女



んあっ

はあああ

いっ……いっい

あっ

そうだ
際限のない欲望に溺れ
己が魔性を磨き
心の闇を増幅させよ

お前はメスだ

このソドムに相應しい
獰猛なケダモノ
なのよおおおお！

あハッ

ぞうだ
さあもつと強く
もつと烈しく

己の肉を
抉り

ず
ず

ああ♥
イイっ

こね
捏ねくり

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

ハッ

ハああ

その肉の深部まで
おが
奪分に侵し尽せ

さすれば その心に開いた
魔道は益々増幅され
更なる悦びと力を
お前にもたらすだるの

グニッ

はあグウウ

グニッ

グニッ

はあ

ハあ

ヌテ

ククッ
ぞうだ

ビクッ

ぞうぞうと心の闇と
我等へと通じる魔性を

己自身の手で
開突するのだ

あフッ

ふふふ

あああ…すっ
すっすっおおこ

アキッ

アキッ

私はもう墮ちるだけだった
人には戻れない
そんな諦めと強い絶望感が私の精神に
グロテスクな変貌を生じさせ
私はより烈しく自らの身肉を苛みながら
邪悪な肉欲に溺れ続けた

意識が捻じ曲げられていくのが分かった
これまで敵であった連中の都合良いように
肉体と精神を造り変えられていく事が
異常なまでに気持ちよかった
そしてそんな獲物の変化を暗黒の意思は
見逃すことはなかった

ならば来るがよい
トドメをさしてやる

私は「はい——」と応えて
立ち上がった

もはや思い残す事も
これまでの自分への未練も
全く感じなかった

はっ♡

その先に待ち受けている
異形との未知なる快樂だけが
私の望みだった

だから身震いするほどの期待感に
ゾクゾクと胸をときめかせながら
その身の総てを差し出した

はー↓

はアアッ♡

クククッ
いいだるう

ビキッ
VIXッ

ならば誓え

その濡れそぼつた性器も

麗しき美貌も

その肉体と精神

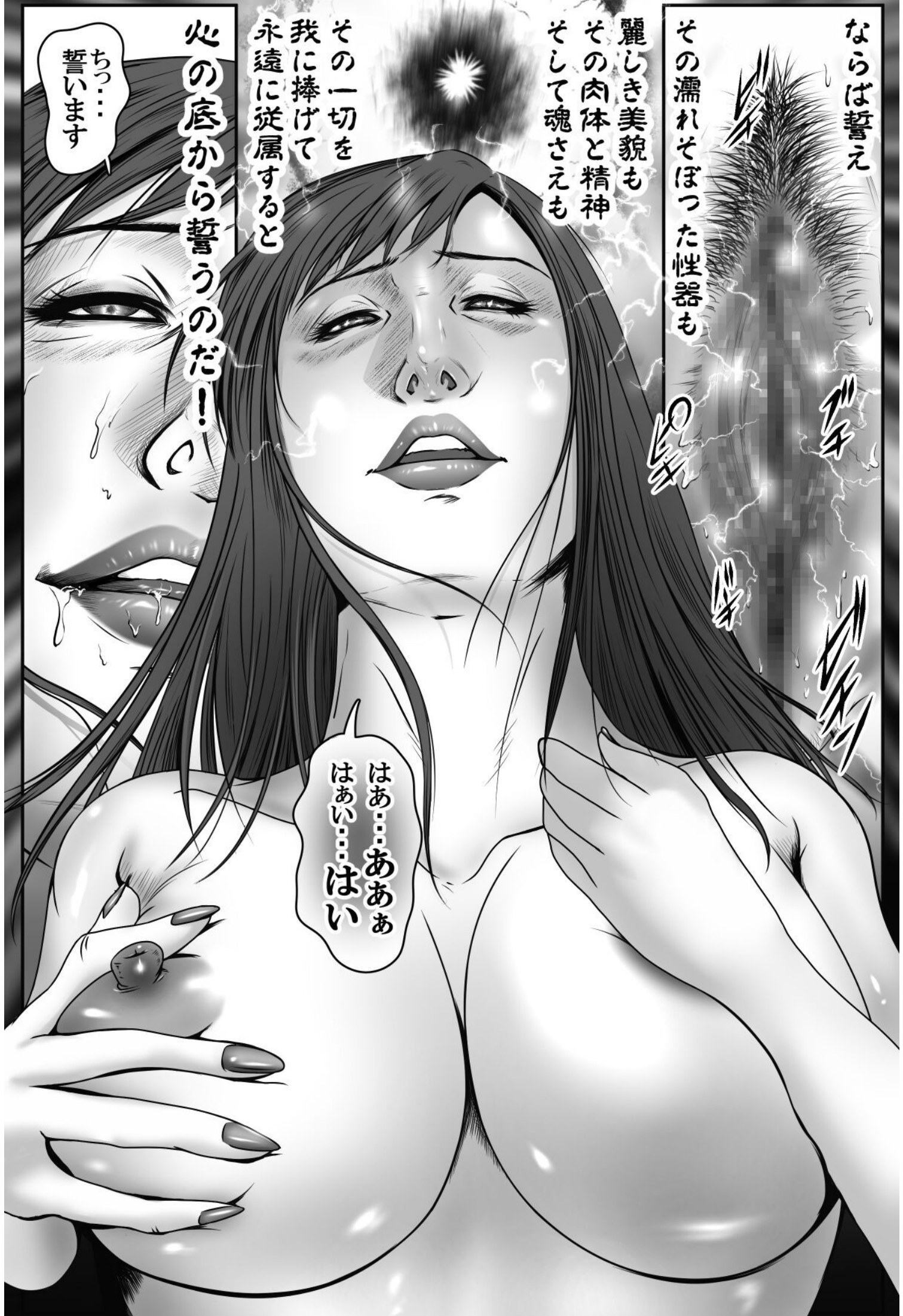
そして魂さえも

その一切を
我に捧げて
永遠に従属すると

心の底から誓うのだ!

ちっ…
誓います

はあ…あああ
はあい…はい



この身の総てを

あなた様に

捧げます!!!



分かった

ならば必置きなく
狂い落ち

このソドムの淫獣と
成り果てるがいい

Av

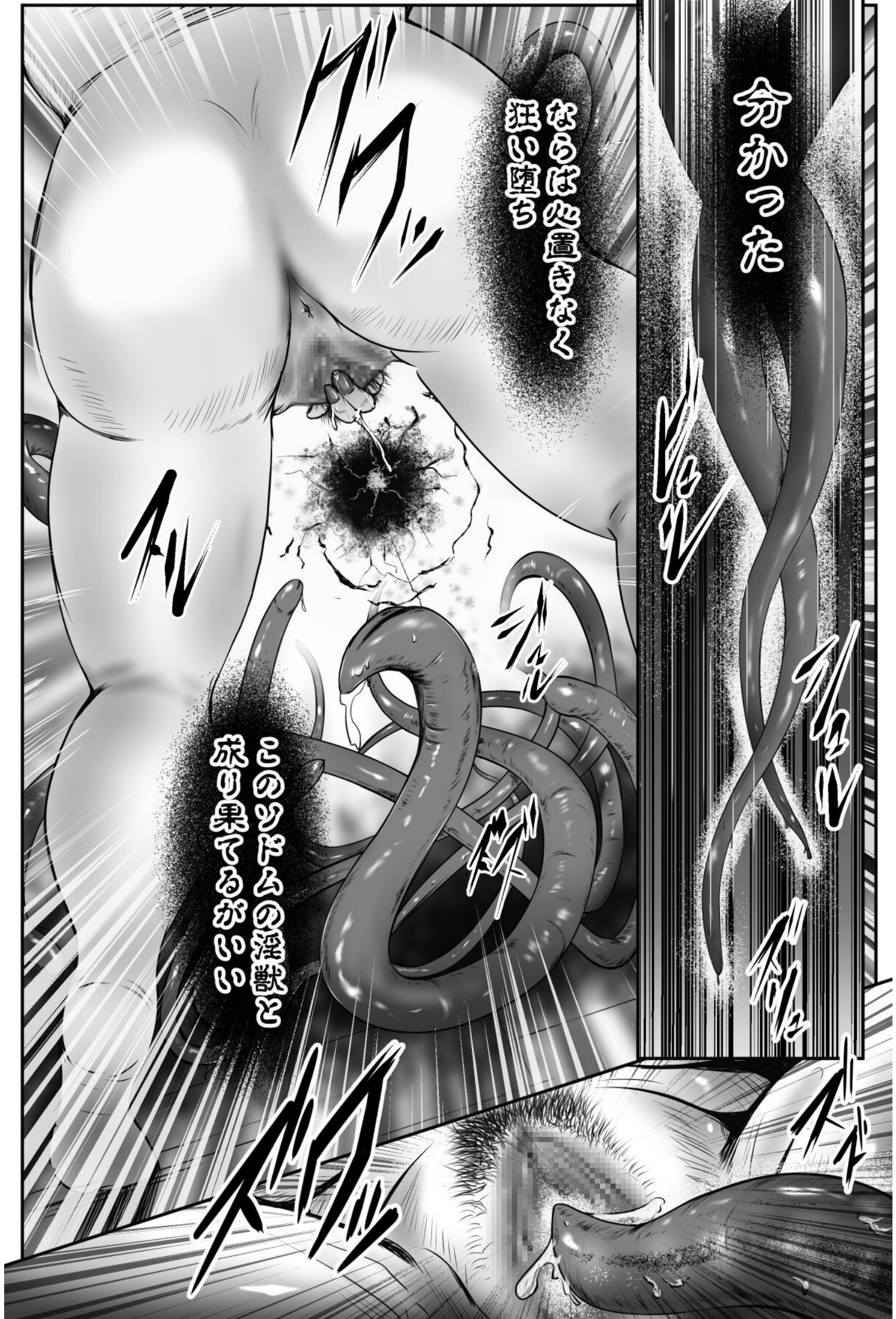
Av

Av

Av

Av

Av





はあッ
あッ

あガッ

ひッ

おキッ!

キッ

キッ

ククククと笑うなら
気持ち良かったら
たまらんだら

おッ

ほッ

ふおっ

ズ

ハッ

アッ

ハッ

アッ

これが真の悦び
我等と肉の交わりだ

おおッ!!

その肉体と精神を
隅々まで織^はり抜け

んっ

ハアぐっ

さあ善がれ
もつと狂え

よの口からも

さあ

おアッ

アッ

んっ

アア

アア

アッ

そうだ欲望のままに
食欲に吸い尽くせ

はああ…穢^{けが}れていく
私の総てが不浄なモノで
侵されていく

なのに…それなのに…
どんどんどんどん欲しくなる
頭の中が欲望だけになってく

アッ

我が精と闇の波動を
たっぷりと受肉し

アッ

アッ

アッ

このソドムの淫獣^{けんそく}となって
わが永遠の眷属^{けんそく}となれ!

アッ

アッ

いいいい気持ちいい
突いてもっと突いて!

ズル

アッ

んグッ

おうぐ

ズグ

アッ

もっともっとと
突き刺して!

アッ

ああ…欲しい

ウグッ

おグウ

アッ

アッ

欲しい欲しい

ウハッ

ほおッ

もわん

欲しい欲しい

んぐっ

オオッ

ん

ん



際限なく注がれ続ける
猛毒に等しい妖魔の淫汁

邪悪な成分に満ちた
その汚怪な毒液は
着実に私の精神と肉体に
沁み亘り 私を狂った
一匹の淫獣へと変えていく

完膚なきまでに蹂躪され
邪悪な意思の意のままに
改変されていくこの身と心

でも素敵だった
最高だった
これまで味わった事のない
凄まじい肉の悦びだった

おぞましき暗黒の力に
支配されることを
私自らが切望した

だから私は溺れた
この破滅の快楽を心の底から欲し

あああああ
もう何もいらぬ
この快楽さえあれば
なんに墮ちたつて構わない

私は全てを受け入れた

私はこの快楽のためなら
何でもする 何でも従う
淫乱で癡猛なメスの淫獣!

だからちようだい!
もつとちようだい
欲しいの欲しいの!

もはや惨めさも絶望感も無かった

もつともつと
欲しいのおオオ!

あるのはただただ深くどす黒い
凶悪な肉の欲求それだけだった

私は淫獣

このソドムの
野蛮な淫獣

淫獣!

淫獣!!



クワクワクワ
これでお前の
魂の改造は完了した

あとはその穢れし
肉体に支配の証を
授けるのみ



これでお前は
完全に我のモノ



才!?

これからは
我等のために

おアア

存分に
働くのだから



奥まで

はアアあ
きてぎでええ

もいとお
おぐうまでええ



オッオッオッオッ

オッ

はあオ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

あッはあああッ！

最高です…最高ですッ

ご主人さまあああ

あッ

あッ

あッ

あッ

あッ



はあ、キヤアアアアああ

アッが

アッが





さあ目覚めよ

我が忠実なる隸

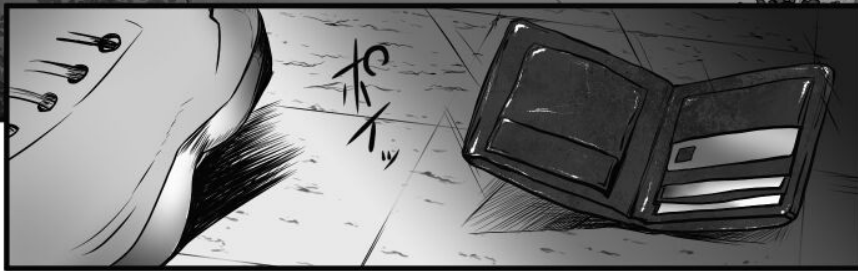
ソドムの淫獣

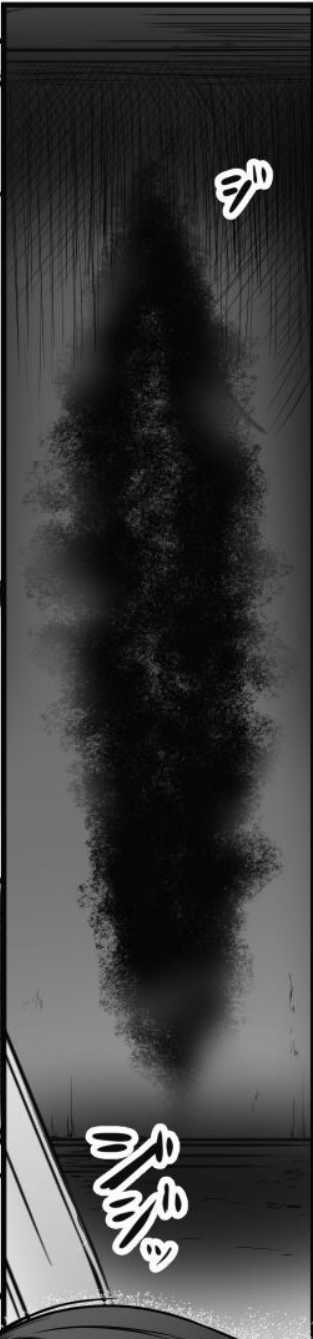
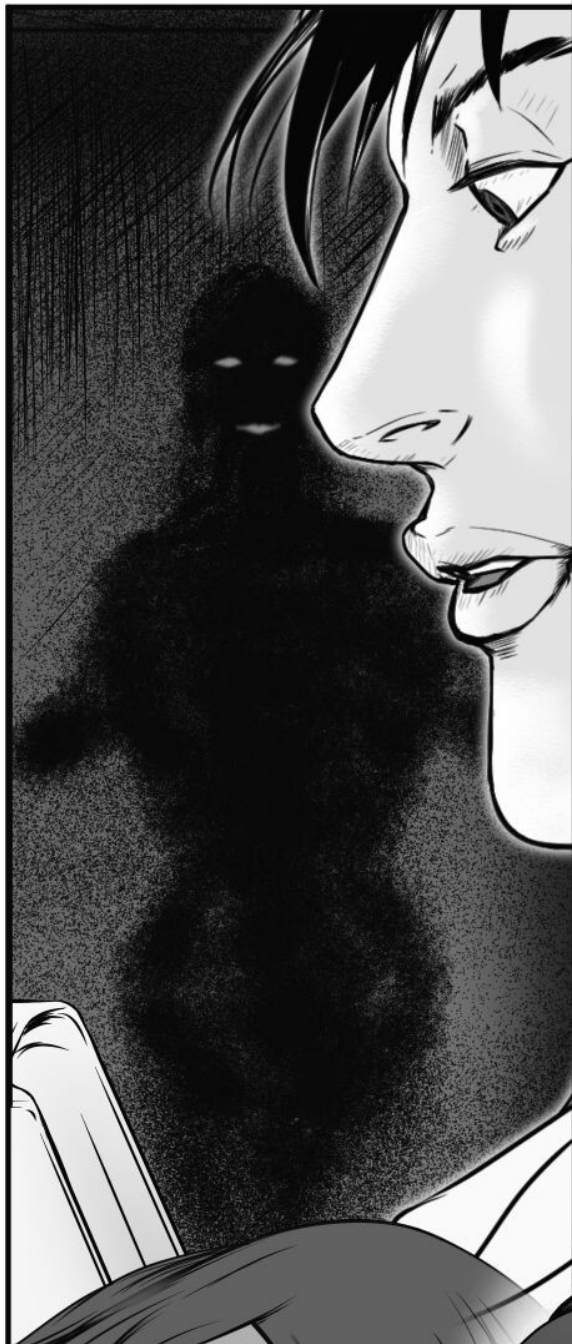
秋月彰子よ

はあい……

我が総ては
闇門のためだ







ギョッ

ギョッ



なつ
!?

ウフフフッ♡

こんばんわ
お仕事帰りの
コソ泥さん

一儲けした後の
ご機嫌なおしつこタイムに
お邪魔してごめんなさいね

なんだよ
…あんた?!

…私？

うふふ

けつ…刑事!?
こんなイカれた
格好した女が？

うふ

一応、
刑事ですけど
それが何か

まさか…
冗談だろ

アキッ

残念ながら
冗談じゃないのよ

ギョッ

少なくとも昨日までは
真剣に世のため人のために
働いてたんだから

馬鹿みたいに

誰がそんなこと
信じるかよ

だいたいここ男子トイレだぞ
あんた どう見たつて
単なる変態女じゃねーか！

あーら
変態だなんて
嬉しい事いつて
くれるじゃない

今の私には
最高の
誉め言葉よ

もうゾクゾク
しちゃう

私のお口で
逮捕してあげる

じゃあご褒美に
このかわいいチンポ

うおっ!!

やっ……
やめろお



あらそう？
こっちの方は
そうは言っていない
みたいだけど

ねええ
チンポちゃん

こんなに硬くなって
物凄く喜んでるじゃない

それに
キンタマだって
こんなにギッチギチ

本当は私と
姦りたいんでしょう

さあ正直に
白状なさい

さもないと

うおっ!!

キンタマ握り潰すよ!!

んっ

んはあ

あ

オ

あ

ギン



ウフフツ

カクッ

どうよ??
最高でしよ??

この舌使用と
ぐちよぐちよの
スケべまんこ

いいのよ
もつと射精してだ



おっ

おっ

おぐら

カクッ

カクッ

フツフツ

どうだ？

最高です

はめめっ
はあー！

最高に気持ち
良いですうう

クククツツ———そうか
ならば人間どもの汁と精気を
存分に貪り尽くせ！

お前を造ったのはそのためだ
分かつておるな
我が忠実なる棘しもへ 秋月彰子よ

人間どもを
甚いた振る気分は？



はあい

かじこ
畏まりました
ご主人様

ククツツ そうだ
それでいい

我に従えば従うほど
お前の血肉に植え付けた
闇の因子は活性化し

縦てはご主人様の
仰せのままに

お前のその肉体と心を
我の棘に相応しきメス
へと造り変えていく

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

あああっ 感じる
感じるわあ

人間の精を^{すす}啜れば^{すす}啜るほど
血肉の奥底から
どんだん力が^{みな}漲ってくる

さあ 射精せ
射精せっ!!

ああっ すごい!
この強く凶悪な力
物凄くゾクゾクするう!!

もっともっと
私の^{なか}腔にぶちまけて
全能なる閻門の
糧となれええ!

人間は餌だ
捕食の対象だ



クツキツキツ!
そうだ餌だ

クツ

お前ら人間は
我らの餌!
捕食の対象だ

その命枯れ果てるまで
この臆肉ちつにくにお前らの精を
たつぷりと注ぎ込め!

あ!

あああ
くるる

くるるる

さあ射精だせ
射精だせ!

射精だせえええ







人間どもの精!

はギィー

最高だわああ



はい
ご主人様

クワンソウ こんで完承だ
おはようお前さま
ソドムの淫獣マユイ
安全を働かしてあげようぞ

総ては我らが
闇門のために！

魔悦の淫門
MAETU NO INMON

～邪淫の門は闇夜に開く～

act02. ソドムの淫獣 洗脳触手編 END